

子ども・子育て支援事業計画の個別進捗状況について

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	29年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
1 地域における子育てへの支援									
（１） 地域における子育て支援サービスの充実									
1－1－1 子育て支援サービスの充実									
地域子育て支援センター事業	乳幼児の保育に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、子育てサークルへの支援等を行う。	児童支援	1カ所	1カ所 延人8,347人利用	A 事業内容を達成した（100%）	兄弟での利用が多かった。休日開放だけではなく、平日も父親と利用する親子が数は少ないが見られるようになる。指導員への保育に関する相談もあったが、利用者同士相談、情報交換をすることも多かった。子育てサークルは、活動の中心になる人がいなく解散、休止になっている。	親子で楽しく過ごせる場所の工夫をし、利用者の増や親子同士のつながりを持てるようにしていく。少ないが父親の参加が見られるので、継続して利用しやすいように配慮する。	継続	
エンゼルサポート120	2歳未満の乳幼児を育てている子育て世帯を応援するため、おむつ用ごみ袋を支給、申請は1回。月5枚を基本に最高120枚を支給。	保健福祉		支給99人 9,430枚	A 事業内容を達成した（100%）	おむつ用ごみ袋を支給することにより、子育て世代の経済的負担の軽減が図られた。	おむつ無料回収事業開始のため、本事業は廃止する。	廃止	おむつ無料回収事業開始のため廃止
1－1－2 子育て情報提供、相談体制の充実									
子育てガイドブック発行	保育サービスや公共施設、保育所、公園などの子育て関連情報を親や地域に的確に提供する。	児童支援		平成28年度に発行済	A 事業内容を達成した（100%）	各関係機関に配布。HPに掲載。	情勢を考慮し改訂について検討していく。	継続	
インターネットによる子育ての情報提供	保育サービスや公共施設、保育所、公園などの情報を携帯電話やインターネットを利用して親や地域に的確に提供する。	児童支援		実施	A 事業内容を達成した（100%）	行事等を町HPに載せたりして情報提供を行っている。		継続	
しゃきっとプラザの活用	プレイルームを子育て中の親の居場所や相談の場として有効活用する。	保健福祉		プレイルーム利用数 988組 延べ人数 2,325人	A 事業内容を達成した（100%）	子育て中の親子の居場所や交流の場として活用されている。	施設、備品等の計画的な更新。	継続	
地域子育て支援センター事業	乳幼児の保育に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、子育てサークルへの支援等を行う。【再掲1-1-1】	児童支援							
子育てカレンダーの配布	町民全体が子育てを応援するという観点から、31編の標語を掲載した日めくりカレンダー（通年使用可）と、子育て関係の行事や緊急連絡先等を記載し、第1子の新生児訪問時に保健師を通じて母親に配布する。	社会教育		27年度作成分を継続的に配付している。	A 事業内容を達成した（100%）	平成27年度に作成したカレンダーを第1子を出産された家庭へ配付している。地域の方々が本町全体の子育てを応援しているという観念に立ち、今後も保健師を通じて配布を継続したい。	日めくりカレンダーとして第1子を出産した母親へ配布しているが、掲載されている標語等を再点検し活用を進めていきたい。	継続	
ひほろっ子ブレイガイドの配布	主として小学生を対象とした体験事業の紹介、また事業実施に伴う参加者募集の情報を毎月1回（月初め）に広報誌として配布する。	社会教育		月1回発行 別に年間行事予定発行	A 事業内容を達成した（100%）	社会教育関係グループやその他子どもの事業の周知について行っており、広報誌として認知していただいている。近年子どもに関する事業が引き続き多い状況であり、紙面の工夫について継続して取り組んでいきたい。	今後も子どもの事業の情報紙として継続的に発行を行っていく。さらに、紙面の工夫により充実を図っていきたい。	継続	
（２） 母子の健康確保及び増進									
1－2－1 母子保健の充実									
妊婦の健康支援	安心・安全な妊娠出産ができるよう妊婦一般健康診査にかかる費用を助成するとともに交通費を助成することにより母体・胎児の健康確保を図る。	保健福祉		助成116人	A 事業内容を達成した（100%）	妊婦一般健康診査にかかる費用を助成し妊婦及び胎児の健康管理の充実、経済的負担の軽減が図られた。	今後も子育て世帯への経済的負担の軽減を図る。	継続	
子育て世帯禁煙サポート事業	子育て世帯の喫煙者に対する禁煙を推進し、たばこの害から妊婦・子どもの健康を守る。禁煙治療費の2分の1を助成する（上限1万円）。	保健福祉		助成2人	A 事業内容を達成した（100%）	禁煙の必要性は理解していても、実際に治療を開始する人が少ないのが現状である。また、事業を活用せずに禁煙に取り組む方もいる。	対象を拡大し、母子健康手帳交付時や乳幼児健診、各種イベント等で事業の周知を行っていく。	拡大	中学生までの子どもの父母、祖父母から、高校生までの子どもの父母、祖父母に対象を拡大。
新生児等訪問指導	新生児と保護者を対象に発育や発達に関する相談、育児相談、健診や予防接種の説明などを行う。	保健福祉		107件	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	家庭訪問により、母子の健康の保持増進、育児不安の軽減に努めた。	育児不安をもつ母親への支援を継続する。	継続	
乳幼児相談	健やかな子どもを育てるために、母親の相談に応じ、乳幼児の健康保持増進を図り、育児を応援する。	保健福祉	12回	12回	A 事業内容を達成した（100%）	保護者の相談に応じるなど、乳幼児の健康増進と育児不安の軽減を図るよう支援した。	子どもの発達や育児不安を抱える保護者に対する支援は、個々に合わせた丁寧な対応が必要となる。	継続	
乳児健康診査	発達の著しい乳児に対し集団健診を実施し、異常の早期発見、離乳食指導、育児指導を行い、乳児の健康保持・増進を図る。	保健福祉	12回	12回	A 事業内容を達成した（100%）	4か月児と10か月児の健診を同時に行うことでの混乱もなく実施できている。	育児教室などの育児支援サービスや家庭訪問など、健診後のフォローも必要時実施する。	継続	
1歳6か月健康診査	運動機能、精神発達、聴覚などの異常の早期発見、助言、育児・栄養・歯科指導を行い、幼児の健康保持・増進を図る。	保健福祉	10回	10回	A 事業内容を達成した（100%）	回数を増やすことで、1回の受診数にゆとりができ、保護者に対して丁寧に対応することができた。	育児不安や発達に心配をもつ保護者が増えており、育児教室や訪問等で健診後も必要な支援を継続する。	継続	
発達支援教室	ことばの遅れや多動など、幼児期における発達やかかわりについて、小集団の親子遊びのなかから学ぶ。	保健福祉	2回	2回	A 事業内容を達成した（100%）	保護者が児の特性を理解し、児に合わせたかかわりを学ぶことができた。親同士の交流のなかから育児状況について共有することができた。	教室終了後も発達支援を受けたいという保護者のニーズが多い。	継続	
3歳児健康診査	幼児期における疾病、視聴覚の異常、精神・運動の発達遅滞児などの早期発見を行い、幼児の健康保持・増進を図る。	保健福祉	10回	10回	A 事業内容を達成した（100%）	回数を増やすことで、1回の受診数にゆとりができ、保護者に対して丁寧に対応することができた。	育児不安や発達に心配をもつ保護者への対応を丁寧に行っていく。保育園などと連携し、未受診者に対する働きかけや状況把握に努める。	継続	
5歳児相談	集団生活を行う中で築かれる社会性の発達、自己統制力の発達の確認を行い必要な支援を図る。	保健福祉		13回	A 事業内容を達成した（100%）	家族や関係者が児の特徴や対応方法について理解することができた。支援機関につながったケースもある。	就学に向け、関係機関との共有や引き継ぎの機会を増やしていく。	継続	
移動総合相談	専門機関による発達遅滞児の相談、発達状態の確認、福祉制度実施のために必要な判定の機会の確保を図る。	保健福祉	5回	4回	A 事業内容を達成した（100%）	児童相談所の職員による発達相談を実施。福祉制度の実施のために必要な判定の機会を提供できた。	今後もこども発達支援センター等と連携しながら、相談・支援していく。	継続	
1－2－2 食育の推進									

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	29年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
食育学習機会の提供	夏休みなどを利用した料理教室の開催やレシピなどの情報提供、食生活に対する学習機会を提供する。	保健福祉		小学校児童対象 食育教室 2回 24人	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	料理教室は例年通りの参加を得た。親への情報提供は子育て支援センター、しゃきっとプレイルームでポスター展示や健康教育を継続している。	今後も継続して取り組む。	継続	
地産地消の推進	安心・安全な食材の提供を目指し地産地消に取り組む。	学校給食	美幌産米の使用 収穫時～毎月1回 美幌産野菜使用	美幌産米の使用収穫時 ～毎月1回 美幌産野 菜使用	A 事業内容を達成 した（100%）	目標を達成することができた。	今後も継続して取り組む。	継続	
子どもチャレンジクッキング	料理を通して地元産物を考えとともに、生活に必要な基礎的な技術を習得する。	社会教育		参加者14名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	平成29年度より桜餅づくりのみとした。ひな祭りなど日本の伝統文化や料理について説明し、事業の目的を対象者に伝えることができた。	事業内容を工夫するなど、関係団体とさらに協議を行い事業を充実させたい。	継続	
1-2-3 思春期保健対策									
思春期保健対策の充実	思春期の身体を守る正しい知識と情報伝達のため学校等と連携をとり、学習機会や相談体制の充実、医師・保健師の講座を開催する。	保健福祉		小学生118人	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	学校と連携しながら、薬物・喫煙について健康教育を実施できた。町内小学校3校中2校で実施した。	今後も実施継続に向けて学校と連携していく。	継続	
薬物、喫煙防止等活動の推進	薬物乱用や喫煙防止のための教育、指導活動を推進する。	保健福祉		小学生118人	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	学校と連携しながら、薬物・喫煙について健康教育を実施できた。町内小学校3校中2校で実施した。	今後も実施継続に向けて学校と連携していく。	継続	
1-2-4 産婦人科医療対策									
産婦人科医師対策(助産師相談の充実)	産婦人科医師の確保に最大限に取り組む。助産師によるきめ細やかな相談体制の充実。	町立病院	(平成30年度)	平成29年度において、 平成30年度から医師 1名の採用を確保	C 一定程度実施で きた（50%）	産婦人科医師が配置されるまでエントリーネットに対応している状況。 30年度からは妊娠初期の方を対象に、妊婦健診を行う。	平成30年度より産婦人科医師1名着任となるが、現状医師1名では分娩を取り扱うのは不可であり、当面妊娠初期の方を対象に、妊婦健診を行う。	継続	
妊婦エントリーネット119	事前に妊婦情報を届出・登録されると、緊急性があると判断したときに出産予定医療機関へ、救急車を出動させて妊婦を搬送する。	消防署		登録者数67名 (内、搬送者1名)	A 事業内容を達成 した（100%）	登録率が高い傾向にある。今後も制度に対する理解と認知度向上のため、啓蒙活動を継続して実施していく。	母子ともに安全で安楽な分娩を援助できるよう、救急隊員の周産期ケアに対する研修を実施し、知識と技術向上の維持に努める。	継続	
(3) 家庭や地域の教育力の向上									
1-3-1 学習機会の充実									
家庭・地域の教育力向上のための学習機会の充実	各自治会の活性化を促し、「人材」の掘り起こしと蓄積を行い、地域ぐるみの見守りの力を向上させる。	社会教育		教育資源リストとして 情報集約し学校に配布	C 一定程度実施で きた（50%）	人材リストについての運用と情報収集について方法を一新し取り組んだ。多様な人財とプログラムの蓄積をすすめていくことが課題である。	名称をびほろ達人大百科「美助っ人（ピスケット）」として親しみやすくし、より活用の拡大に努めるよう取り組みを進めていく。	継続	
家庭教育学級の開設	町内2幼稚園を核として、子育てにおける今日的課題における母親同士の交流機会を提供。各幼稚園の保護者が主体的に計画を立案し、実施・運営していく。	社会教育		全10回 延べ985名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	保護者役員の積極的な参画により予定していた事業をほぼ実施することができた。託児スタッフの確保が課題となっている。	引き続き託児の要望も多くなっている。役員は意欲的に参画していただいているので、様々な意見を取り入れ今後も随時改善していきたい。	継続	
1-3-2 子どもの生きる力の育成									
コミュニティスクールの充実	事業・イベントの開催・運営主体に地域住民が参画し、取り組む。異年齢のふれあう機会につながり、経験や伝統、知識等を子どもたちに伝えるための体験機会となる。	社会教育		3小学校区で開設	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	各校区で主体的な取り組みを進めていただいた。各小学校区を中心に地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成につながっている。	各校区ともに、事業内容の充実を図るため、社会教育Gと情報交換をしながら取り組める。	継続	
子ども参画行事の推進	事業・イベントの開催・運営主体に小中高校生が参画し、取り組む。	社会教育		高校生対象に随時	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	高校生リーダーつみきサークル事業を中心にリーダー層の育成を行い、様々なイベントに参画するきっかけづくりにより少しずつ高校生リーダーの増加がみられる。このまま取り組みを継続していきたい。	美幌高等学校との連携により、高校生のリーダーを安定的に養成していけるように調整を行っていく。 高校生への呼びかけ方法を検討、スケジュール調整など高校生が参加しやすい環境作りを行いたい。	継続	
子どもちょっと体験教室	職業体験など社会性に留意した体験活動の機会の充実を目指し、自ら進んで興味・関心を持ち、体験できるような新鮮で意義あるプログラムの提供を行う。	社会教育		列車乗車体験1回 参加者28名 まち探検 参加者20名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	社会生活に密着したものであるとして「列車」の乗車体験を実施するとともに、美幌町内の商店街を探検する事業を実施した。列車の事業は安定的に参加者が得られている一方、町探検への参加者が少数となった。	列車の乗車体験は今回で10回目の実施で依然要望が高く継続するとともに新たな目的地も選定し、マンネリ化への対応を行うことができた。町探検事業は事業内容をどのように伝えていくか継続して検討していくことが必要。	継続	
おもしろキッズ共和国	参加対象である小学生自らがプログラムを立て実施。自発性を促し、様々な体験活動に興味・関心を抱く子どもの育成を図る。	社会教育		全8回 35名申込 延べ142名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	異年齢のグループにより、自分たちで考え実施する取組を実施することができた。ボランティアに関する学習や、保護者へ感謝を伝えるプログラムなどの取組も実施することができた。	事業の回数を見直し、全体での取り組みは6回とし、津別町との交流事業を2回特別編として実施した。今後も一つ一つのプログラム大事にした取り組みを進めていきたい。	継続	
(4) 児童の健全育成									
1-4-1 青少年健全育成活動の推進									
放課後児童健全育成事業(学童保育所)	保護者が、昼間就労などにより保育ができない小学生の児童を対象に、適正な遊び及び生活の場を与え、児童の健全育成を図る。	児童支援	3カ所 (平成29年度) 150人	3カ所 149人 (最大在籍時)	A 事業内容を達成 した（100%）	共働き家庭など、保育が出来ない児童の預かりを実施出来た。	小学6年生までの段階的受入（場所・指導員の確保）及び支援を必要とする児童の増加傾向への対応。	拡大	小学6年生までの受入を、小学4年生から段階的に実施することで学校と協議中。
びほろっ子ワクワク通学合宿	異なる学校や学年の子どもたちが、親元を離れ、1週間ほど集団で宿泊しながら学校へ通学することにより、異年齢の集団活動や生活体験活動を行う。	社会教育		5泊6日で実施 12名参加	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	青少年育成専門推進員、生涯学習推進員の協力により、学習サポートを継続して実施することができた。さらに美幌高等学校からの協力も得、学習の時間その他で子どもたちと交流も図ることができた。	体調に配慮し、布団の借り上げを行い睡眠の環境を整えることで平成28年度より格段に体調不良を減らすことができた。今後も継続して取り組みたい。	継続	
おもしろ科学の祭典inびほろ	自然科学の不思議さ、楽しさなどを体験するとともに、子どもから大人まで科学実験を通して、互いにふれあい、人と人とのつながりの大切さなどを感じ取る機会とする。	社会教育		年1回 300名参加	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	旭小学校のPTAからも協力をいただき科学のたのしさと人々との交流を実施することができた。また、北見工業大学と連携した取組も実施することができ、プログラムの充実も図ることができた。	実行委員会の構成メンバーが引き続き減少傾向にあること、事前の会議・準備の人不足が課題となっており、広く声かけをすると共に、様々な機関・団体に協力を呼びかけていきたい。	継続	
子どもチャレンジクッキング	料理を通して地元産物を考えとともに、生活に必要な基礎的な技術を習得する。【再掲1-2-2】	社会教育							

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	29年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
子ども対象サークル開設講座	マナビティーセンター利用サークルの主管により、親子や子どもの体験の場を拡充するとともに、地域人材と子どもがふれあう機会を作る。	社会教育		3組6名	C 一定程度実施できた（50%）	親子陶芸教室の他は実施に至らなかった。同様の性質をもつキッズカルチャークラブもあるため、統合を検討したい。	キッズカルチャークラブへの統合を検討する。	継続	
キッズカルチャークラブ	土曜日の休日を活用し、地域人材による子どもの体験活動の機会を拡充する。	社会教育		2団体 延24参加	C 一定程度実施できた（50%）	文化的な体験について土曜日を活用し提供することができている。マナビティーセンター利用登録サークルもプログラムを企画いただいたが参加者が得られず中止となったものもあり、広報活動を積極的に行っていきたい。	今後も様々な体験機会の拡充を目標に、マナセン利用サークルを中心に開設の奨励を強化していきたい。	継続	
学校週5日制に伴う学校開放事業「サタ☆スポ」	学校週5日制に伴うスポーツ活動の場を提供する。スポーツの楽しさを理解してもらいスポーツの日常化を図る。	スポーツ振興	市街3小学校 年5回 各館定員なし	年4～5回 美小 4回 65名 東陽小 5回 53名 旭小 4回 78名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	外での運動をしなくなる冬場にかけて開催することで、運動を行う機会の提供が出来た。	各学校の先生に協力いただくことで、施設の開放作業をスムーズに行うことができた。	継続	
高校生短期交換留学	美幌高校とケンブリッジ高校の相互交換留学を実施し、語学修得と学校間交流を促進する。	まちづくり	定員 1回 2名	1回 1名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	異文化体験を通して交流推進と人材育成が図られた。	事業について対象の高校に限らず、広く町民に周知する必要がある。	継続	
田んぼの学校推進事業	農業農村整備事業で整備した農地と土地改良施設への理解を深め、人材育成、都市と農村の交流、人間と自然の共生につなげる。	耕地林務	定員 50名	年4回実施（田植、観察会、稲刈、収穫祭）・子供60名参加（延184名）	A 事業内容を達成した（100%）	水田や水路、ため池などを、遊びと学びの場として活用し、自然と人との関わりを学ぶことができた。	新規参加者の拡大。	継続	
みどりの村 元気の森事業	元気の森を活動エリアとして、子どもとその保護者などの大人たちにより、乳幼児から児童・生徒、大人にまで森林体験の楽しさの普及啓発を図る。	みどりの村振興公社		お子様誕生記念植樹・化粧炭づくりと森林散策	A 事業内容を達成した（100%）	参加に大変好評だった。	誕生植樹は年々好評であるが、植栽地に限界がある。	継続	
教育専門相談	児童生徒の悩み、家庭での教育について幅広い相談を受ける。教育全般相談員1名、不登校相談員1名。	学校教育	2名配置	2名配置	A 事業内容を達成した（100%）	児童生徒や保護者へ教育に関わる専門的なアドバイスが行われている。また、引きこもりや不登校の改善などの効果が表れている。	相談員の活動に対する周知に努めてはいるものの、認知度が低いなどの課題があることから、わかりやすいポスターの作成（更新）等を実施している。今後も更なるPRと専門知識の研鑽に努めていく。	継続	
少年少女スケート教室（ジュニアスピードスケート教室に名称を変更）	スポーツ活動を積極的に進めるために、適切なプログラムに基づいたスポーツ教室を開設し、継続的にスポーツ活動体験させることによって、スポーツの日常化を促進するとともに、スポーツ団体、グループなどの組織育成を図る。	スポーツ振興	定員 30名	年5回 31名 延140名	A 事業内容を達成した（100%）	初級・中級・上級に分けて指導を行った。最後にはタイムトライアルを実施し、自分の練習の成果を実感するとともに、スピードスケートの魅力に気づき、スキル向上の意欲を持たせることができた。	スケートシーズンと重なっており指導者の確保が難しく、指導者の育成が必要である。	継続	
ジュニアスノーボード教室		スポーツ振興	定員 20名	年5回 8名 延36名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	スキー場頂上から個々のレベルでの技術を駆使し、安全に降りてこれることと、ボードとしてのスキー場利用についてのルールやマナーを重点に置いて実施した。	受講する生徒で技術に差があるため、3～4クラスに分けてクラス編成を行った。子供たちの集中力を低下させないように進めることが必要不可欠である。	継続	
ラッコ水泳教室		スポーツ振興	定員 40名	年6回 37名 延111名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	100%の出席率で意欲的に練習に取り組んでおり、それぞれの泳力を伸ばすことが出来た。	2～3年生の部と1年生の部で実施したが、2～3年生の部は定員を超えたのに対し、1年生は定員割れをしており、周知方法を検討する必要がある。	継続	
アイガモ水泳教室		スポーツ振興	定員 15名	年6回 15名 延80名	A 事業内容を達成した（100%）	顔がつけられなかったり、泣く子が多かったが最終日には全員がけのびキックまでできる様になった。	保育園等の終了時間と教室開始時間が合わない場合があり、開始時間の検討を行う必要がある。	継続	
サッカー教室		スポーツ振興	定員 30名	年5回 14名 延55名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	サッカー技術の上達のほか、団体スポーツに必要なコミュニケーション能力を、ゲームを通じて養うことが出来た。	参加人数が減少傾向にあり、周知方法等の参加者増に向けた取組を検討する必要がある。	継続	
バタック教室		スポーツ振興	定員 20名	実績なし	E 着手できなかった	参加人数が少なく中止した。	バタックに興味・関心を持ってもらえるような周知の方法を検討する。	継続	
剣道教室		スポーツ振興	定員 20名	年6回 10名 延58名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	参加対象を年長児から一般まで幅広く募集し、親子で参観できるように実施した。	年齢層での区分をするだけの指導者が確保出来なく、参加対象について検討が必要である。	継続	
幼児体カテスト・運動実技指導	幼児の体力傾向を探り、運動を処方する。	スポーツ振興	町内幼児	体力測定 年1回 75名	C 一定程度実施できた（50%）	昨年までは春秋2回の実施を行っていたが、実施間隔が短く比較が行いやすいことから1回の実施とし、結果を基に運動指導を行った。	運動指導の実施時期や方法を検討する。	継続	
水泳技能検定	水泳の継続的活動を促進し、技術・体力の向上及びチャレンジする意識の高揚を図る。	スポーツ振興	年1回	年1回 49名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	水泳少年団を中心に泳力検定を実施し、個々の水泳技能向上に繋がった。	参加者のほとんどが水泳少年団であり、幅広く参加が得られる様な工夫が必要である。	継続	
スポーツ少年団育成	スポーツ少年団の活動援助と結成促進。	スポーツ振興	19団体	19団体	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	指導者に対し、新たに資格取得に係る講習会参加への支援を行うことができた。	指導者への支援内容についてより効果的な方法を検討する必要がある。	継続	
中3体力講習	中学3年生を対象にトレーニング器具の使用方法やマナーを学ぶとともに、大学講師の専門講話から競技力や体力向上を図る。	スポーツ振興	年5回	年5回 13名 延51名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	日赤看護大の山本教授にトレーニングに対する専門的知識や理論を分かりやすく講義いただき、トレーニングに対する関心や意欲を高めることが出来た。	今年からは美中・北中に分けずに計画したことで、途中の計画変更を行わずに実施できた。	継続	
高校生トレーニング教室	高校生を対象にトレーニング器具の使用方法やマナーを学ぶとともに、大学講師の専門講話から競技力や体力向上を図る。	スポーツ振興	年5回	年5回 14名 延59名	A 事業内容を達成した（100%）	日赤看護大山本教授を講師として招聘し、トレーニング理論を学んだ。実技トレーニングでは、有酸素性能力と無酸素性能力の両方を同時に向上できる間欠的トレーニングについて学んだ。	終了後のアンケートでは、「以前よりもやる気が出てきた」など、皆がトレーニング意欲が向上した結果となった。	継続	
B & G会長杯町民水泳大会	大会を通して、水泳の普及振興を図るとともに町民の健康・体力の保持増進と相互の親睦交流を図る。	スポーツ振興	年1回	年1回 75名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	少年団や水泳協会のみならず、小学校・幼児の参加もあった。大会新記録が27個出るなど盛り上がりを見せた。	学校単位でのリレーを実施するなどして、多くの参加が得られるよう工夫を行った。	継続	
アクティブ☆キッズ・ビートスポーツ教室	生涯にわたって心身ともに健康で豊かな生活を送るために、幼少期における運動へ親しむ基礎を育み、子どもの発育発達へ繋げる。	スポーツ振興	年間事業 年20回	年20回 36名 延447名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	17種目の運動・スポーツ活動をしながら身体を動かす楽しさを伝えるとともに、運動の習慣化と体力向上が図られた。また、いろいろなスポーツを体験することによって、自分にあったスポーツを見つける機会となった。	種目設定が多岐にわたるため、種目によっては指導者が不足することがあり、指導者の確保・育成の必要がある。	継続	
チャレンジキッズスポーツ教室	発育発達の著しい幼児期に身体を動かすことによって、健康・体力の保持増進を図り、生活習慣や人間形成を身につけさせる。	スポーツ振興	定員 30名		E 着手できなかった			廃止	今後、文科省の採択を受ける機会がないため、廃止する。
キッズ☆ビートスポーツ教室	発育発達の著しい幼児期に身体を動かすことによって、健康・体力の保持増進を図り、生活習慣や人間形成を身につけさせる。	スポーツ振興	定員 30名	年8回 30名 延216名	A 事業内容を達成した（100%）	発育期からの活発に身体を動かし、様々な運動を経験することで、身体的側面のみならず、脳機能の発達にも大きく影響を受けることから実施した。	昨年度の反省を踏まえ、運動能力に差を考慮し年中、年長に組分けすることで指導がし易くなった。	中止	平成30年度はスポーツセンター耐震化工事のため中止する。
感動体験スポーツ研修	町外から離れ、普段体験できない自然体験活動や異年齢との集団生活を通して、連帯感・責任感・積極性・自立性を養う。	スポーツ振興	定員 36名	年1回 25名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	キャンプ活動や雌阿寒岳登山では、多くの仲間と交流を深めることができた。研修活動を通して、参加者全員の成長を感じることができた。	今回は天候に恵まれ、計画通りに全行程を実施できたが、雨天時等でも達成感を味わえる内容を検討する必要がある。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	29年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
おはなしのへや(幼児・児童・父母)	豊かな人間性を育て、読書への関心を芽生えさせるための絵本・紙芝居の読み聞かせを実施する。	図書館	月2～3回 (第1・3・5木曜)	年25回 延123名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	利用者が減少してきており、今後さらなる事業のPRが必要である。	継続	
絵本とあそび！（乳幼児・父母）	乳幼児を対象としたお楽しみ会、読み聞かせ会を行う。	図書館	月2回 (第2・4木曜)	年23回 延285名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	多くの市民に利用して欲しい。	継続	
保育園読み聞かせ巡回	ボランティアの協力を得て、保育園において読み聞かせの巡回を行う。	図書館	月2回	町内2カ所 年21回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り協力を得て実施された。		継続	
子ども映画会	映画鑑賞を通じて、日本及び世界の文学を理解するとともに、親子のコミュニケーションの素材を提供する。	図書館	随時開催	随時4回 延83名	C 一定程度実施できた（50%）	平成28年度から定期開催から要望に応じた随時開催とした。	今後も要望があれば開催する。	継続	
おはなしと工作の広場	学校週5日制に伴い、子ども達がお話や工作を通して手作りの楽しさや物語の世界にふれる場として教室を実施する。	図書館	年4回	年4回 延44名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	利用者が減少してきており、学校へのPR活動を続ける。	継続	
手づくり絵本講習会	手づくり絵本を作る楽しさを普及するため、講座を実施する。	図書館	年1回	年1回 14名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	多くの市民に利用して欲しい。	継続	
学級文庫	学級単位で団体文庫を設置する。	図書館	市街3小学校	市街3小学校	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
おはなし文庫	1セット55冊として期間中、月1回巡回配本する。	図書館	へき地保育所 年11回	へき地保育所 年11回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
幼稚園文庫	幼稚園児を対象とした図書を毎月1回配本する。	図書館	幼稚園1カ所、 認定こども園1カ所 年12回	幼稚園1カ所、認定こども園1カ所 年12回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
読書感想文コンクール	児童生徒の読書力、表現力の向上を目的として小中学校及び学校図書館協会との連携のもとに感想文を募集する。	図書館	年1回	年1回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
児童生徒作品展	展示機能を活用し、学校の協力を得て児童生徒の作品の発表の場を提供する。（町内3小学校の輪番）	図書館	年1回	年1回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
ユニットライブラリー	図書館と地域を結ぶ拠点として、毎週土曜日午後には開館する。	図書館	町内2カ所	町内1カ所	C 一定程度実施できた（50%）	管理人辞任のため美富ユニットを年度途中で廃止し、南集会室ユニットの1カ所となった。	多くの市民に利用して欲しい。	継続	
図書館ボランティアの日	図書館ボランティアの日を制定し、図書館内でのボランティア活動の場を設ける。	図書館	年12回	年12回 延65名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	ボランティアの拡大を図りたい。	継続	
子ども未来絵本036事業	ブックスタート：10ヵ月健診時に乳幼児への読み聞かせの大切さや、その方法を説明するとともに絵本などを配布する。 ブックセカンド：3歳児健診時に絵本をプレゼントし、絵本紹介パンフレットを配布しアドバイスをを行う。 ブックサード：新小学校1年生に絵本をプレゼントする。	図書館	ブックスタート 年12回 ブックセカンド 年10回 ブックサード 年1回3小学校	ブックスタート 年12回114名 ブックセカンド 年10回137名 ブックサード 年1回150名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
絵本展示	子ども読書週間に合わせ絵本の展示・紹介を行う。	図書館	年1回	年1回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
こどもの日無料開放	柏餅配布、せんべい焼き体験、工作教室などを通じて、身近に博物館を感じてもらう。	博物館	年1回	入館者として 年1回 1,059名	A 事業内容を達成した（100%）	充実した内容で実施できた。	内容充実に努めたい。	継続	
冬季作品展	展示機能を活用して、学校の協力を得て、町内の小中学校の児童生徒の作品を紹介する。	博物館	年1回	年1回 入館者として747名	A 事業内容を達成した（100%）	充実した内容で実施できた。	内容充実に努めたい。	継続	
学校教育との連携事業（旭小学校自然体験事業） 町内小中学校との連携事業	先生と学芸員との連携による体験事業の実践。学校との連携のあり方を考える。	博物館	年20回	年31回 参加児童・生徒数として 1,523名	A 事業内容を達成した（100%）	充実した内容で実施できた。	内容充実に努めたい。	継続	
自然講座（博物館講座（自然編） 博物館講座（自然編、歴史編、芸術編）	身近な自然や歴史、芸術等をテーマにした講演会・観察会・実習等を通して、美幌の自然や歴史、芸術の面白さを知ってもらう。	博物館	年10回程度	年10回 延べ153名	A 事業内容を達成した（100%）	充実した内容で実施できた。	内容充実に努めたい。	継続	
美幌ふるさと祭り	祭りの出店、イベントから暴力団(関係者)を排除し、青少年の健全育成を促進する。	まちづくり		子ども横丁設置。会場内禁煙。防犯パトロールの実施を行った。	A 事業内容を達成した（100%）	暴力団を排除した町民手作りのお祭りで、子ども達が安心して楽しめた。 また、各団体が防犯パトロールを行う事で、更に安心したお祭り運営ができた。	お祭り運営をするにあたり、高齢化が進み、若手の育成が必要。	継続	
1-4-2 青少年教育施設の整備									
児童館機能を有する子ども拠点施設の整備(コミュニティセンターの充実)	コミュニティセンターに児童館機能を設け、子育て、発達を移し、児童センターを併設して、子どもをはじめ親子の居場所づくりに重点的に取り組む。	児童支援		子ども、親子の居場所として開設した。	A 事業内容を達成した（100%）	取り組めている。	内容充実に努めたい	継続	
1-4-3 子どもを取り巻く有害環境対策の推進									

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	29年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
インターネット等利用環境に関する啓発	インターネットやスマートフォン等の正しい使い方やルール、マナーについて啓発する。	社会教育		教育講演会を実施 参加者47名	C 一定程度実施できた（50%）	北中学校PTA研修会と兼ねて実施し、インターネットやスマートフォンをめぐるトラブルなどについて学ぶ機会を作ることができた。	継続的に、保護者に呼びかける機会を作るとともに、子どもたちへの直接的な呼びかけも随時行っていきたい。	継続	
少年少女非行防止運動標語	町内の小中高校生を対象に、防犯意識の高揚と青少年の非行防止を目的とした標語の募集を実施し、入選作品10作品を表彰する。	まちづくり		高校生対象 99点応募	A 事業内容を達成した（100%）	非行防止の意識を高めることができた。	対象学生全てが作品提出される様に、対象学校への更なる協力要請が必要。	継続	
薬物、喫煙防止等活動の推進	薬物乱用や喫煙防止のための教育、指導活動を推進する。【再掲1-2-3】	保健福祉							
2 すべての子どもの育ちを支える環境の充実									
（1） 要保護児童へのきめ細かな取り組み									
2-1-1 ひとり親家庭の自立支援									
ひとり親への相談体制の整備	増加傾向にあるひとり親家庭に対し、自立支援、就業支援、相談体制の充実と福祉サービスの情報提供を推進する。	保健福祉		随時対応	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	就業支援等の相談があった場合、随時対応を行っている。	今後も相談があった場合、随時対応していく。	継続	
2-1-2 障がい児施策の充実									
子ども発達支援センター	発達に心配のある児童、障がいをする児童に対し、通園の方法により指導を行い、育成を助長する。	児童支援	1カ所 定員1日20名	1カ所 79名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	療育室が不足しているため新規の利用希望者の回数を制限することがあった。	利用者が希望する通所回数の確保。町内の施設に対する支援の充実。	拡大	人員の確保、支援充実のための事業拡大。
幼児ことばの教室	幼児の健全育成と福祉の増進を図り、心身ともに健やかに育成されるよう援助し、必要な指導を行う。	児童支援	1カ所 定員20名	1カ所 37名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	入室希望者を全員受け入れることができたが、通室児の回数を制限していた。	利用者が希望する通所回数の確保。	拡大	人員の確保。
移動総合相談	専門機関による発達遅滞児の相談、発達状態の確認、福祉制度実施のために必要な判定の機会の確保を図る。【再掲1-21】	保健福祉							
2-1-3 児童虐待防止対策の充実									
児童虐待防止対策の充実 （関連機関の連携）	児童虐待を未然に防ぐとともに虐待に遭った子どもを守るため、関連機関の連携を密にし、広報活動などを行う。	児童支援		要対協3回 ケース会議2回	A 事業内容を達成した（100%）	必要に応じてケース会議等情報共有、提供を行った。	各関係機関との連携を十分行う。	拡大	国の法改正により、市町村における児童虐待事務の増加や職員研修の義務付けなど役割が大きくなってきている。
（2） 子育て支援のネットワークづくり									
2-2-1 子育て親子の交流推進									
しゃきっとプラザの活用	プレイルームを子育て中の親の居場所や相談の場として有効活用する。【再掲1-1-2】	保健福祉							
プレママクラス(妊娠中からの講座)	妊娠中から子育ての環境づくりについて学習するとともに、仲間づくりを行い、子育ての孤立化を防止する。	保健福祉		12回	A 事業内容を達成した（100%）	助産師の講話回数を増やし、産後のボディケアについての内容を追加した。前年度よりも参加者数は増加した。	今後も参加者のニーズを把握し、必要時プログラム内容を検討していく。	継続	
両親教室(妊娠中からの講座)	夫婦がともに子育てについて学習することにより、父親の育児参加の推進を図る。	保健福祉		3回	A 事業内容を達成した（100%）	初妊婦の7割程度が参加。参加者の満足度は高い。	参加しやすい時間帯や曜日を検討。参加しやすい内容を検討する。	継続	
フレッシュママセミナー	4ヶ月～1歳までの子どもとその母親を対象として、子育てに関する今日的課題（食事や遊び等）について学ぶ講座を開設し、親子のつながりや他の親子との交流を深める機会を提供する。	社会教育		夏期 11組23名 冬期 10組20名	A 事業内容を達成した（100%）	保健師と連携し新に母親の健康についての講話を取り入れるなど、子どもと親両面からのアプローチができた。	乳児の託児を安全に行うことができるよう、関係機関とも相談の上定員を5組減らして事業を実施した。参加者から安心して託児をお願いできたなどの評価もあり、継続していきたい。	継続	
2-2-2 子育てサポーターの養成									
子育てサポーターの養成 （サポーターの養成講習会、登録、活用）	子育て親子を支援する人材の発掘と養成のため、子育てサポーター養成講習会等を実施するとともに、登録し活用する。	児童支援		ボランティア講座の中止	E 着手できなかった	ボランティア講座の募集を広報、チラシの配布等で募集をしたが参加者が集まらなく開催できなかった。	開催時期（毎年2月開催）、PRの検討をする。	継続	
（3） 子どもの安全の確保									
2-3-1 子育てを支援する生活環境の整備									
子どもたちを見守る活動の推進	「おはよう」「こんにちは」「車に気をつけて」など、地域の子どもたちに声をかけることや青色回転灯装備車両による見守り活動を行う。	社会教育		子どもみもり隊 登録者数 （H30年3月末現在） 2,237名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	氏名が重複している、転居しているなど、実数と異なる事象について整理を行い、登録者名簿の整理を行った。今後も登録者を増やしていくため広報を行っていきたい。	見守り隊への呼びかけにより、一斉行動などにつながるように取り進めたい。	継続	
2-3-2 子どもの安全を確保するための活動の推進									
交通安全教室の開催	小中高校、幼稚園、保育所、保育園などを対象に交通安全指導を行う。	まちづくり		24回 延べ 2,155人	A 事業内容を達成した（100%）	生涯教育として、交通安全教育を継続実施し啓発普及を図った。	中学生については、学校の授業に取り入れる余裕が無く不十分であり、街頭指導などで補っている。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	29年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
交通安全ポスター・作文 コンクール	交通安全意識の啓発のため、町内小中学生からポスター・作文を募集し、作品を展示する。	まちづくり		・ポスター 小学生267点 中学生 84点 ・作文 中学生107点	A 事業内容を達成 した（100%）	家庭からの交通安全意識の助長。 作品展示・入選作品のカレンダーの作成により啓発を行い、交通安全意識の高揚を図った。	児童・生徒数の減少により出品数が減っているが、今後も継続実施していく。 応募を増やすため、作品募集要領の一部改正を行う。	継続	
消防チビッ子大会	子どもたちが消防署に親しみ、防火に対する意識を高め、遊びを通じて火遊びなどを防止し、安心・安全なまちづくりを行う。	消防署		年1回 約250名参加	A 事業内容を達成 した（100%）	消防への関心と、防火に対する意識を高めているので達成している。	マンネリ化しないように新たな事業内容を検討していく。また、庁舎改築に伴い、継続実施方法の対策案及び廃止であれば代替案を作成する必要がある。	継続	
2－3－3 子どもを犯罪等から守るための活動の推進									
子どもの安全確保の充実	登下校時における児童生徒の安全を確保するため、不審者情報を携帯電話のメールなどにより周知する。	学校教育		継続	A 事業内容を達成 した（100%）	教育委員会が把握した情報が速やかに多くの方へ周知出来、児童生徒の安全確保に繋がっている。	平成29年10月に、町が行う「あんしんネットびほろ」と統合しリニューアルスタートした。今後、さらなる周知活動を進め、登録者数の拡大を図る。	継続	
子ども110番活動の充実	子どもを犯罪から守り、被害を最小限にするため、トラブルに巻き込まれそうになったときに助けを求められる場を確保する。	まちづくり		0件	C 一定程度実施できた（50%）	対象事案が発生していないため、トラブル等の抑止効果があると思われる。	新たな登録者の増加と子供達への周知が必要。	継続	
（4） 被害に遭った子どもの保護の推進									
2－4									
児童虐待防止対策の充実 (関連機関の連携)	児童虐待を未然に防ぐとともに虐待に遭った子どもを守るため、関連機関の連携を密にし、広報活動などを行う。【再掲2－1－3】	児童支援							
3 仕事と子育ての両立の推進									
（1） 保育サービスの充実									
3－1－1 通常保育の充実									
通常保育事業	保護者の労働又は疾病などにより、家庭において児童を保育することができないと認められる場合に、保護者に代わり、保育園(所)での保育を実施する。	児童支援	定員 常設 120人	実績112人 (最大在籍時)	A 事業内容を達成 した（100%）	年々町の総児童人口は減少しているが、保育が必要な児童を対象に保育所（園）での保育を実施できた。	1・2歳児の保育希望者増加への対応及び支援が必要な園児の増加への対応が課題である。受入について認可外保育園などと連携・情報交換等を図っていく。	継続	
保育園開放事業	乳幼児の子どもとその親に保育園を開放し、遊びの場を提供することにより、子育て家庭への支援を行う。	児童支援	2カ所 年6回	2カ所 2保育園×3回	A 事業内容を達成 した（100%）	次年度、保育園に入園希望の親子が、見学をかねて参加していた。入園を考えていない親子も、園児の様子をみて育児の参考にしていた。	参加者の人数や、年齢を見て保育園と事前打ち合わせを行い、事業がスムーズにできるようにしていく。	継続	
放課後児童健全育成事業 (学童保育所)	保護者が、昼間就労などにより保育ができない小学生の児童を対象に、適正な遊び及び生活の場を与え、児童の健全育成を図る。【再掲1－4－1】	児童支援							
3－1－2 一時預かりの充実									
一時預かり事業	保護者のパート就労などや疾病、入院などにより、緊急・一時的に保育を必要とする児童の預かりを行う。	児童支援		3施設実績延167人 566日 子育て支援センター町立 保育園2箇所	A 事業内容を達成 した（100%）	同日に託児希望者が重なると保育士の確保が難しいことがあったが出来るだけ対応した。	保育士を確保し、利用者の増加に対応していきたい。	継続	
学童保育一時預かり事業	緊急・一時的に保育を必要とする小学生の児童の預かりを行う。	児童支援		未実施	E 着手できなかった	通常利用者の増加により人員確保など受入体制の整備及び場所等が困難なため実施することが出来なかった。	緊急での利用要望はなかった。ただし、急ぐ事情の場合は、現状でも優先して早急に保育を行っている。	継続	
妊婦健診時一時預かり事業	第2子以降の出産の場合、町外の産婦人科医院(医院)に通院するとき、託児する親族がいない場合に、子育て支援センターで一時的に上の子の預かりを行う。	児童支援		27人 27日	A 事業内容を達成 した（100%）	利用者は少ないが出産まで定期的に利用してもらえた。	一時預かりが増えてきているので、妊婦検診時の保育士の確保。	継続	
3－1－3 多様な保育施策の活用									
多様な保育施策の充実・促進	事業内保育施設や民間保育所などの認可外保育施設に対し、保育内容の充実のための助言や指導に努める。	児童支援		実施	A 事業内容を達成 した（100%）	道で実施する立入調査に同行し指導を実施している。また、情報い。	引き続き情報交換・助言指導を行い、保育内容等の充実に努めた	継続	
へき地保育所の運営	上美幌、福住及び田中地区のへき地保育所を、1月を除く11ヵ月間運営し、へき地の保育需要に対応して保育を実施する。	児童支援		定員150人 実績 47人	A 事業内容を達成 した（100%）	各保育所、毎年10人以上の児童を受入し保育を実施できた。	発達に多少心配がみられる児童の増加傾向への保育士確保。	継続	
（2） 男性を含めた働き方の見直しと父親の子育て参画の促進									
3－2 父親の子育て参画									
父親の子育て参画の啓発	父親が子どもと過ごす時間を設け、母親がリフレッシュする時間を確保するとともに男性の子育て参加を促進する。	保健福祉		3回	A 事業内容を達成 した（100%）	両親学級で実施。		継続	

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	29年度実績	事業達成度	事業の評価	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
両親教室(妊娠中からの講座)	夫婦がともに子育てについて学習することにより、父親の育児参加の推進を図る。【再掲2－2－1】	保健福祉							
（3） 放課後児童対策の充実									
3－3 放課後児童対策の充実									
放課後児童健全育成事業(学童保育所)	保護者が、昼間就労などにより保育ができない小学生の児童を対象に、適正な遊び及び生活の場を与え、児童の健全育成を図る。【再掲1－4－1】	児童支援							
学童保育一時預かり事業	緊急・一時的に保育を必要とする小学生の児童の預かりを行う。【再掲3－1－2】	児童支援							
コミュニティスクールの開設	あらゆる世代がふれあい、語り合い、学び合う活動を通して、子どもたちを地域全体で育てようとする交流の場を開設する。	社会教育		3小学校区で開設	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	各校区で主体的な取り組みを進めていただいた。各小学校区を中心に地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成につながっている。	事業内容の充実を社会教育Gと情報交換をしながら進める。	継続	